

## 第 80 回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

わかるように伝えるための構造化

わかるように伝えるために環境を整える方法として構造化をあげることができます。構造化することによって周囲の環境を分かりやすくするということです。難しく考えることはありません。分かりやすく伝えるための方法なのです。わかるようになれば安心して生活することができるようになるのではないでしょうか。

つまり、構造化とは、物事の意味をわかるように伝えることなのです。代表的なものに「物理的な構造化」、「スケジュールの構造化」、「ワークシステム」、「ルーティーン」などがあります。今回は、物理的な構造化について述べておきたいと思います。

物理的な構造化

物理的な構造化とは、活動と場所を対応させてわかりやすく伝えることです。一つの場所を多目的に使ってしまった場合、その場所で何をするのがわかりにくくなってしまうから、場所と活動を対応させるようにするのです。

言葉を理解することができ、伝えられたことを理解することができる場合は、一つの場所を多目的に使っても、言葉で説明されたら納得することもあるでしょう。伝えられたことを理解できる場合はそれでもよいのです。しかし、言葉で説明されても、その内容を理解することができにくい場合はどうなるのでしょうか。その場所に行っても、何をしてもよいのかがわからなくなり混乱してしまう人もいるのではないかと思います。そのような混乱を最小限にするために「物理的な構造化」を行うということなのです。理解できない人が悪いのではなく、理解できるようになっていない物理的な環境がおかしなことです。

先日、ある学校で質問を受けました。「物理的な構造化」の必要性については理解できるのだが、それだけのスペースが確保できないというものでした。そのような場合は、どうしても同じスペースを別の活動と共有しなければならなくなるでしょう。例えば、教室を造形活動の場合にも、個別指導の場合にも、給食にも使わなくてはならないといったような場合のことです。このような場合は、机の配置を変えたり、机の上のテーブルクロスを変えたりすることで対応することはできるのではないかと思います。テーブルクロスが変わっていたり、机の配置が変わっていたりすることで理解することができる人もいるはずなのです。限られた条件の中で、いかにわかるように伝えるのかということですね。構造化するときには、周囲の支援者の考え方の柔軟性が問われることになるのです。

### 坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など